

HARI

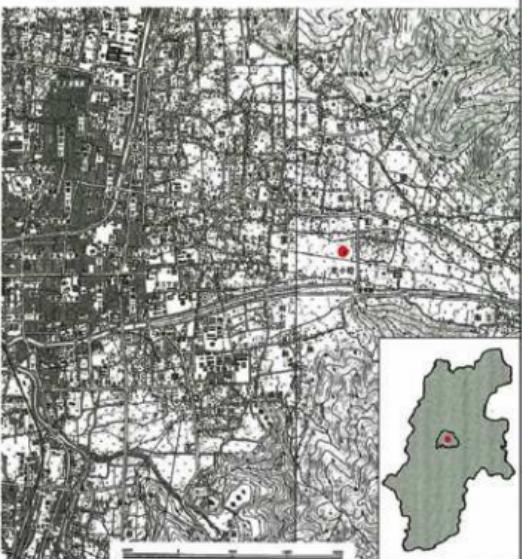
ZUKA

針塚古墳の発掘

松本市教育委員会

針塚古墳とは？

針塚古墳は、松本市里山辺3174番地にある古墳で、水田と果樹園に囲まれた中にこんもりと盛り上がる、松本市内でも非常に良く残っている古墳のひとつです。南250mには薄川が流れ、その薄川が形成する段（河岸段丘）の縁に針塚古墳は作られました。この針塚古墳は古くから積石塚古墳として注目され、いくつかの文献にも記載されています。積石塚古墳とは、石を積み上げて築かれた古墳のことと、松本では針塚古墳のある里山辺と岡田・水汲地区にそれぞれ数基あったと言われていました。そのなかで最も良く残っていたのが針塚古墳です。



発掘調査前の針塚古墳

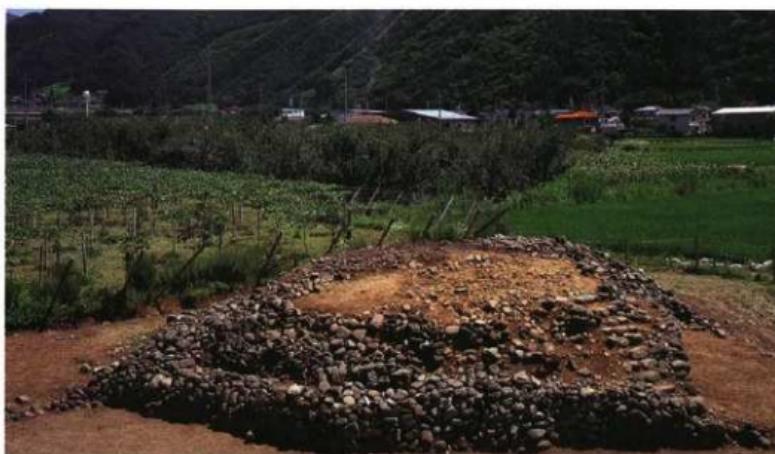
南西から北西方向を見たところ。古墳の上には草や木が茂り、空缶やゴミなども捨てられていました。
前面の石垣は古墳の段のように見えます。

平成元年 4月30日撮影。

北西斜め上空から望む

古墳をおおっていた草や木、腐植土、ゴミなどをきれいに取り除いた状態。正面の右側には墳頂（古墳の頂上部分のこと）に登つていく石段が組まれています。ただしこれが古いものかは疑問。

平成元年8月8日撮影



南西の真横から

3段の石垣の状態がよくわかります。2段目と3段目の石垣や墳丘（古墳の盛り上がり全体のこと）の右側全般の石積みには、石と石の間に土が詰まっており隙間が目立ちます。左奥の青い屋根は発掘現場事務所。

平成元年8月8日撮影



南西部石垣の拡大

中段の写真正面の石垣を真横から拡大したところ。1段目と2段目の間に石のない広いテラスがあります。これらの石段・石垣・テラスが針塚古墳に始めからあつたのか、後に改変されたものなのかが発掘で最初に問題になりました。

平成元年7月21日撮影



発掘調査の進行1

元年7～9月

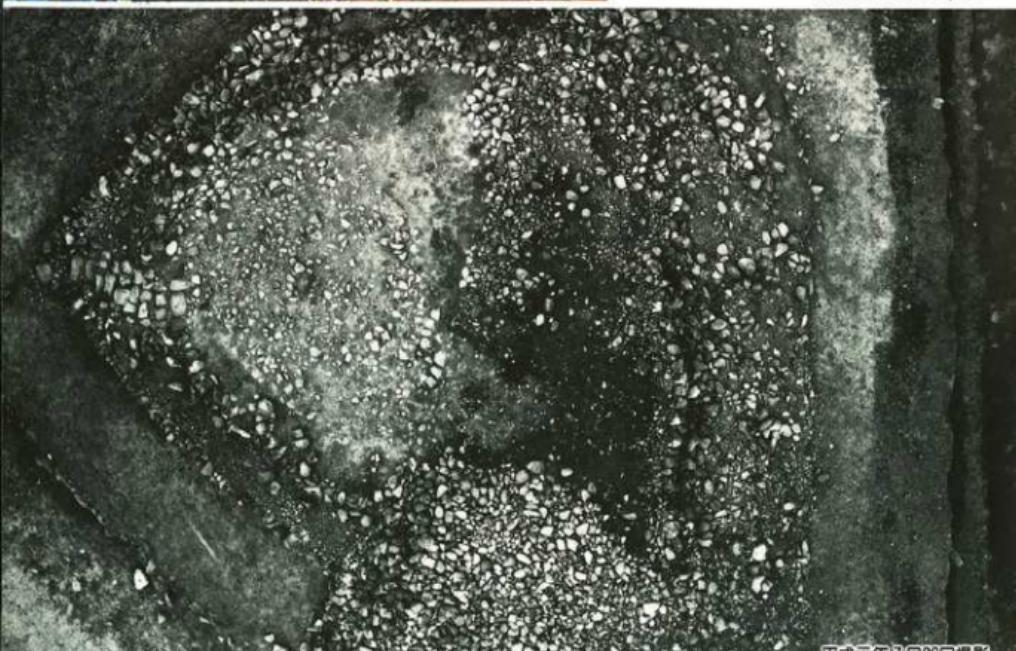
作業は古墳をあおう腐植土の取り除きと清掃から始まりました。終了後、クレーン車により上空からの写真測量を行い、発掘前の針塚古墳の現状を完全に記録します。次に古墳の中心から放射状に8方向にトレンチ（試し掘りの溝）をいれて古墳の石積みのどの深さまでが本来のものかを探りました。



↑写真上 古墳の草取と清掃作業の様子です。墳頂部（古墳の頂上）には雨水がしみ込まないようにビニールシートが掛けられています。
平成元年7月5日撮影



←写真左 古墳の中央から八方に放射状のトレンチ（試し掘りの溝）を掘っています。その結果古墳の外回りには周溝という大きな溝が巡っていることがわかり、中から西暦5世紀頃の土器が出土して、針塚古墳が予想よりずっと古い可能性が出てきました。
平成元年9月5日撮影



発掘調査の進行2

元年9~10月

トレンチ（試掘溝）の結果、墳丘上部の約80cmは石が新しく積み直されていることがわかりました。そこで新しく積まれた石を取り除く作業に取りかかります。これらの石の間からは江戸時代や明治以降の陶器のかけらが出土し、新しさの証明になりました。

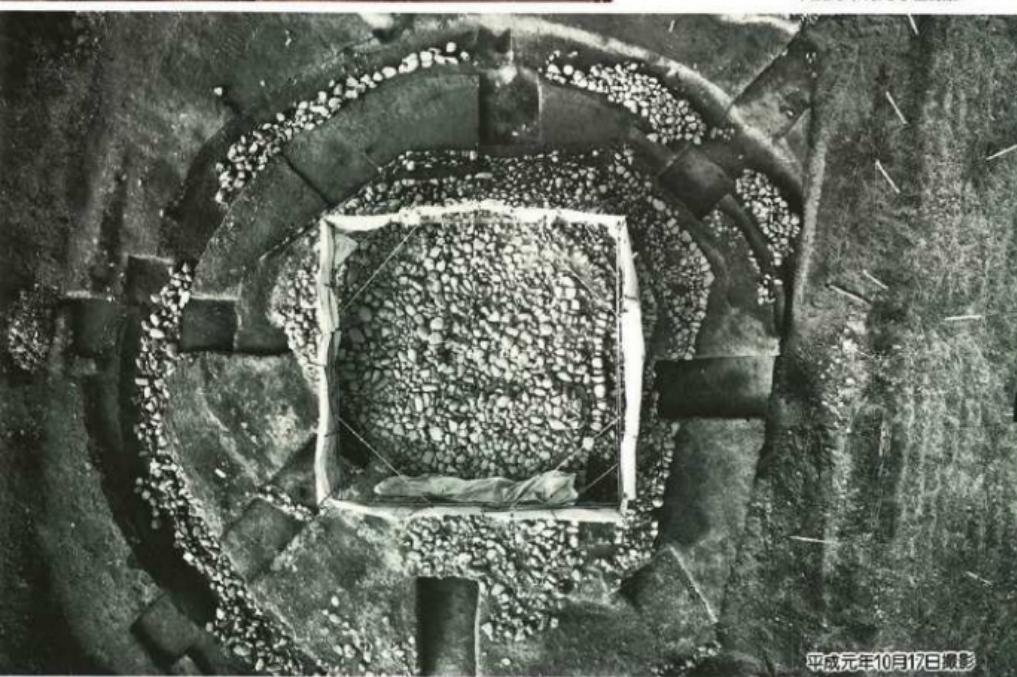


↑写真上 新しく積まれた石を取り除く作業。少しづつ、人力で行なうたいへんな仕事でした。 平成元年10月12日撮影



←写真左 古墳の中央に十文字の土手のように残して、新しく積まれた石を取り除いた状態。下半分の石は大きく、石の間にも土が詰まっているのに対して、上半分の石は細かくて隙間も多いことが良くわかります。このことから下半分の大きな石が本来の古墳が残っている部分と判断しました。

平成元年10月6日撮影



平成元年10月17日撮影

新しい石積みを取り除いた針塚古墳 墳頂部（古墳の頂上）の四角の囲いはこれから墳頂部の発掘を始める用意です。

発掘調査の進行3

元年10~12月

いよいよ墳頂部を掘り下げて埋葬施設（遺体を納めた石の部屋）を探し、その中を掘っていく作業にかかりました。また周溝（古墳のまわりを巡る溝）を見つけて、掘り下げも行います。この結果、埋葬施設からは鏡や鉄器、周溝からはお葬式に使つたたくさんの中器が出土し大きな成果があがりました。



↑写真上 墓溝を掘り始めた状態。周溝のなカカラはたくさんの石が頭を出し始めています。墳頂部には囲い用のヤグラが組んであります。
平成元年10月23日撮影



←写真左 墓頂部の掘り下げ風景。まわりをシートで囲んだ中で、石の間の土や不要な石の取り外し作業が続きます。
平成元年10月29日撮影



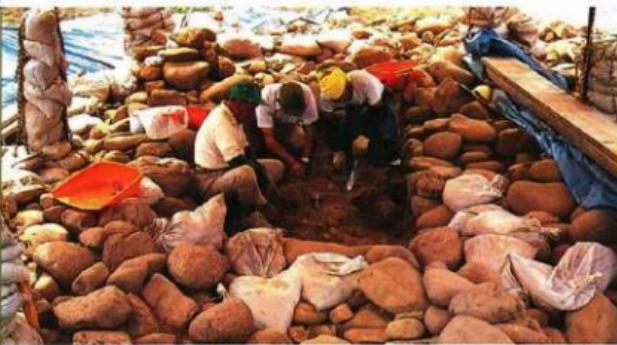
平成元年11月22日撮影

調査最終段階の針塚古墳 墓丘より周溝の形の方が本来の姿をとどめていることが、埋葬施設の位置からわかります。

発掘調査の進行4

2年6月～8月

2年目の発掘は埋葬施設（遺体を安置する部屋）の細かい調査と墳丘ガどのように造られたかを探ることです。埋葬施設の底の石を剥し、墳丘の一部に深いトレンチ（試掘溝）を入れました。その結果、針塚古墳は最初に土を盛り上げて基礎を築き、その上に厚く石を積んで造られたことが判明しました。



↑写真上 埋葬施設の中をさらに掘り下げているところです。

平成2年7月6日撮影



←写真左 埋葬施設の底を抜いた状態。十字に見える土の壁は土層観察用の駐です。このように厚い石積みの下には土盛りの部分があることがわかりました。

平成2年7月19日撮影



平成元年1月22日撮影

埋葬施設を上空から見る 底面にはまわりの石とはまったく異なる平石（鉄平石）が敷かれています。

針塚古墳の全貌

墳丘 全長 約24m (周溝含む)

直径 約20m

高さ 約 2 m

(復原高) 3 m以上

周溝 幅 1.6~2.9m

深さ 0.8m



古墳概観の拡大

埋葬施設の規模 古墳を巡る溝の内側には石
構造: 穫穴式石室 が貼り巡らされていました。
長さ: 2.25m これらは石が崩れ落ちない
幅: 1.30m ように下から上へと積み上
深さ: 0.40m げられています。

石の貼り石拡大

発掘調査八景

針家古墳の発掘では、他の遺跡の発掘調査にはないさまざまな光景が
みられました。古墳の重要性が高く、慎重な作業を進めたためです。



クレーンによる写真測量 古墳上空からの写真撮影や測量は大型クレーンの先端のコンテナに撮影者が乗って行いました。



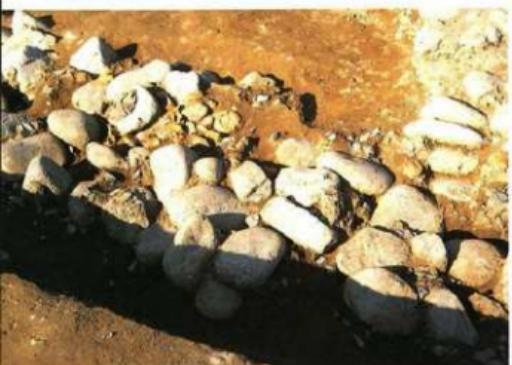
集塵機の活躍 墓頂部ではどんな小さな遺物も拾い落さないように土はすべて捨てずに集めました。細かい部分は集塵機で吸い集めます。



墳頂部の囲い 墓頂の埋葬施設からは貴重な遺物の発見が予想され雨風や直射日光、遅延などの災害から守る目的で設置しました。

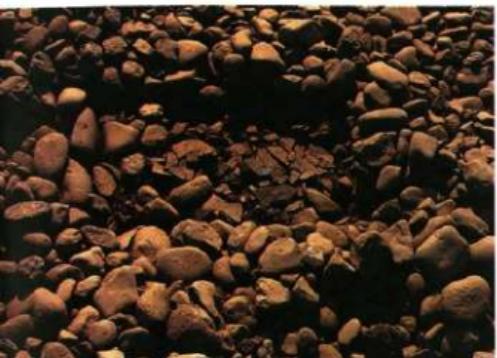


土の水洗い 墓頂部から集めた土はすべて水洗いを行い、中に含まれる小さな遺物を拾います。ガラス小玉が數十個、鉄器や鏡の破片まで見つかりました。



周溝内の石と土器 周溝(古墳のまわりに掘られた溝)の中には墳丘に積まれていた石が転がり落ちてあり、南西部では石の間からたくさんの土器が出土しました。お葬式の時に使われていた土器でしょうか。





埋葬施設と鏡の出土位置

埋葬施設をまったく同じ角度から撮影したもので、モデルを入れると大きさの感じがつかめると思います。鏡の上にのっているのは鏡で、ちょうどこの位置から出土しました。

主体部の型取り作業 1～6



1. 埋葬施設を風雨から守るために、古墳の上にテントを建てます。さあ、準備OKです。

2. 石室内の河原石の全面に、噴霧器を使って型取り用のゴムを吹き付けます。

3. ゴムの型が変形しないように、さらに石膏を塗って補強のための外型を作ります。



4. 型をはずして外へ運びだせるように、材木を使用して補強のための型枠を作ります。

5. ゴムと石膏が乾いて固くなるまで待ちます。それからいよいよ型を取り外します。

6. 型を外へ運びだし、きれいに掃除をします。これで型取り作業は無事終了です。



越冬の準備

平成元年度の発掘終了後、凍結や降雪で古墳が崩れるのを防ぐため、全面をシートと土袋で覆いました。厳しい松本の冬を越す準備です。使用した土袋の数は実に1500個！

出土品

埋葬施設から鏡が、また埋葬施設と墳頂部を中心として各種金属製品、石製品、ガラスの小玉が出土し、土器はおもに周溝の内部から出土しました。



ないこうはっかもんきょう
内行八花纹鏡

(左一裏・右一表) 裏面に8枚の花びらを内側に連ねたような文様があることから名付けられた鏡です。この鏡は古代の中国(後漢～三国代)で製作されて、はるばる日本へ運ばれてきたものです。当時の鏡は銅に錫などを混ぜて作った白銅製の円盤で、裏側には紐通しの穴があります。古墳時代では權威の象徴として使われていました。



つづく
鉄鏃 鉄製の矢じりが20本以上見つかりました。ほとんどが片側だけに刃がつき、武器として使われました。



刀子 現代の小形ナイフに相当し、工具や武器として使われました。左側が刃、右側は柄を差し込んで固定する部分です。



ベルトを固定するための金具です。下側の中央にはベルトの穴に通すための金棒がわずかに残っています。



鐵製の刃です。刃先から上は空洞になっています。ソケットのように柄に差し込んで固定できるようになっています。



剣に柄を取り付け固定するための部品です。目釘を打ち込むための穴が中央にあけられています。

ガラス製のビーズ玉が約120個見つかりました。大きさは直径2~3mmで、淡い青色、水色や透明の玉があります。これらは紐で連ねてアクセサリーとして身を飾りました。



糸を紡ぐときに使用するはずみ車で、滑石を磨いて作られています。中央の穴の中に長い棒を通し、その棒を回転させながら織錐によりをかけて糸を作り出しています。



つき
坏 素焼きのお椀



たかつき (小) 足付きのお椀



たかつき
高坏 (大)



かん
壺 小形の壺



つば
壺 首の段が特徴



すえき よたつ たかつき
須恵器の蓋付き高坏

土器から年代を探る

黄褐色の素焼きの土器（土師器）に坏・高坏・首に段のある壺は古墳時代中期の特徴を示し、さらに灰色の使い焼きの土器（須恵器）の形から西暦5世紀の後半頃の年代が導かれます。





県町遺跡 県ヶ丘高級、あがたの森に広がる弥生～平安時代の遺跡。写真は昭和61年の県ヶ丘高校の発掘。



県町 2号古墳 農林水産省立水試験場の敷地内に残っている古墳。直径20m高さ1.5m



下原遺跡 山辺中学校の一帯に広がる遺跡。古墳後期～平安時代。写真は昭和61年の山辺中学校の発掘。



薄町・石上遺跡 薄の宮神社一帯に広がる遺跡。古文～近世までと時代幅が広い。平成元年発掘。



堀之内遺跡 平成2年の発掘で120軒もの住居跡が発見された。古文～平安時代。



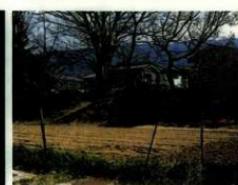
薄の宮神社 「奥々終宮」とも書く。平安時代に官位を授けられたことがある薄川の水神。



千鹿頭北遺跡 千鹿頭山の北側に広がる。古墳時代前期～平安。写真は昭和62年の発掘。



巾上古墳出土品 巾上古墳は薄川の左岸、南小松にあった後期の古墳で、土器・刀などが出土した。新井邦夫氏蔵



北河原原塚古墳 北小松に現存する古墳で残りが良い。直径22m、高さ3mで山辺最大。



大塚1号古墳 方形の石積み古墳と考えられていたが、昭和63年の発掘で、一日破壊され積み直されたことが判明。

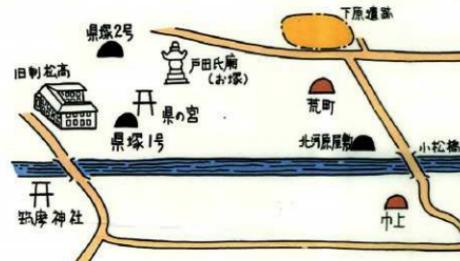


古宮古墳跡 わずかな土の盛り上がりが残っているだけ。薄町遺跡の発掘で周囲を走了がわからなかつた。



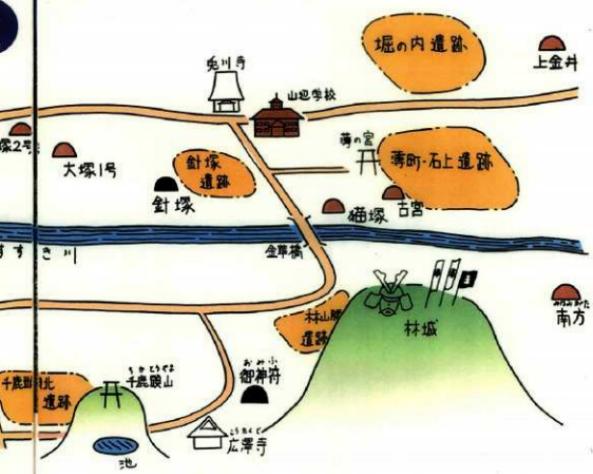
南万古墳 平成元年、工事中に発見。横穴式石室で、土器・玉類・刀・馬具など遺物の数は松本平で最多。

針塚古墳を巡る遺跡と古墳



凡例

- 残っている古墳
- なくなってしまった古墳
- 遺跡の範囲



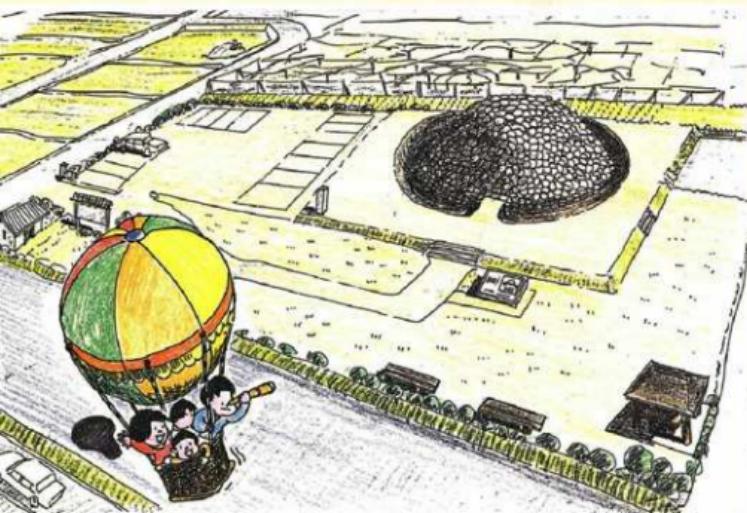


遺跡名 針塚古墳
遺跡台帳番号 松本市64-295
(長野県市町村別遺跡一覧表)
松本市370
(長野県史遺跡地名表)
地番 長野県松本市里山辺3174番地
調査期間 平成元年6月26日～12月19日
平成2年6月6日～8月11日
調査主体 松本市教育委員会

現地説明会

元年12月17日

発掘の成果を一般の人々に伝えるために現地説明会を開催しました。当時は寒風が吹くなから300人を超える市民、研究者、報道関係者が訪れ熱気に満ちた説明会になりました。見学者・協力者の皆さん、ありがとうございました。



針塚古墳の発掘

平成3年3月30日発行
発行 松本市教育委員会
〒390-8000松本市丸の内3-7
TEL 0263(34)3000
印刷 精美堂印刷株式会社